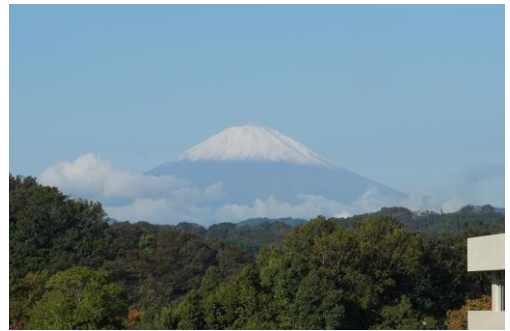


＜雪化粧＞富士山の初冠雪が報じられたのは 20 日ほど前のことです。しかしその雪はすぐに融けてなくなり、雪を頂いた山をキャンパスから見ることはできたのは 11 月になってからのことです。つい先日にはずっと裾の方まで雪化粧していましたが、誰もが思い浮かべる富士といえは写真の程度に雪のある姿でしょうか。モヤのかかった中での富士なのが残念でした。ところで空気の澄んだ中で富士を見られる機会がここ何年か随分減ってきたように思います。



＜香草＞日も短くなり朝晩がめっきりと冷え込むようになってきました。ビオトープでは冬の気配がしのび寄ってきています。まさに“立冬”（11月7日）です。そんな中で流れの下流に数株のフジバカマが咲きだしました。秋の七草(種)の一つで淡い藤色の糸が集まった姿はこの時期に目立ちます。葉や茎にはフラボンの仲間が含まれていて干すと桜餅のようないい匂いがします。このため平安の昔から匂い袋に入れたり髪を洗うときに使ったりしていたようです。ところで SHC の立地する平塚市や隣接する秦野市は源実朝(鎌倉幕府第 3 代征夷大將軍)と縁のある地です。実朝は正岡子規も絶賛した歌人そして金槐和歌集を編纂させた人であり、“藤袴きて脱ぎかけし主や誰問えどこたへず野辺の秋風”とフジバカマを詠っています。



＜フジバカマ＞

＜源実朝＞ 鶴岡八幡宮で公暁に討たれた実朝の首を武常晴（三浦氏の家臣）が波多野氏の領地（現秦野）まで運んで逃げ埋葬したとされ、秦野には実朝公首塚があります。

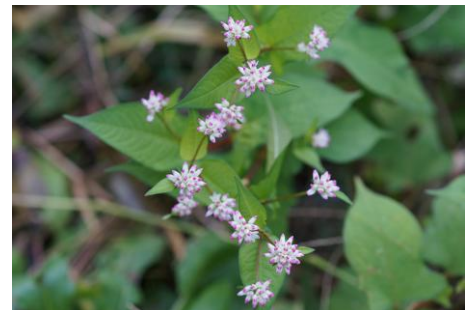
＜七草＞春、秋そして新しくは夏の七草があります。そのうち“秋の七草”が一番古く、草の種類も万葉集（巻 8）にある山上憶良の歌 2 首“秋の野に 咲きたる花を指折りかき数ふれば 七種(くさ)の花”と“萩の花 尾花葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花”で定着したとのことです。“秋の七草”は冬を迎える前に野に咲く花を愛でるもので、一方“春の七草”はまだ寒い早春に緑の葉を持つ七種の草を食し無病息災を願うものです。ところで SHC では“秋の七草”のうちクズの花はフジバカマが咲くころにはもう遅いように思います。ビオトープにはオミナエシが見えず、残念ながら黄色の花はセイタカアワダチソウでした。また、アサガオは今の朝顔でなくキキョウが最有力のようですね。

＜ミゾソバ＞

＜金平糖＞夏の盛りに「ミゾソバが沢山生えているのに とんと花が咲かない」と嘆き口調で No.13 に記したのですがミゾソバには申し訳ないことをしました。10 月の末から尖った先を食紅で染めた金平糖のような花が咲き広がっています。



＜静止飛行＞バッタもチョウもほとんど姿を見せなくなりましたが、まだ頑張っているトンボがいるのです。左は静止飛行しているミルンヤンマです。ミヤマアカネもまだ姿



←ミルンヤンマ＞ を見せています。 (文と写真：松本正勝)